

令和3年12月

庁舎改築周辺整備事業プロポーザルの結果について

軽井沢町では、庁舎改築周辺整備基本計画・基本設計策定委託について、公募型プロポーザルにより、次のとおり設計者を選定しました。

1 業務名

庁舎改築周辺整備基本計画・基本設計策定委託

2 審査経緯

令和3年8月6日（金） プロポーザル審査委員会
一次審査（参加表明書及び企画提案書の提出があった20者のうち、7者を一次審査通過者として選定）
令和3年9月28日（火） プロポーザル審査委員会
二次審査（プレゼンテーション及びヒアリングを実施し、最優秀提案者及び優秀提案者を選定）

3 審査委員会

委員長 團 紀 彦（建築家・青山学院大学総合文化政策学部教授・軽井沢町マスターアーキテクト）
委員 藤 居 良 夫（元信州大学工学部准教授・庁舎検討委員会会長）
委員 池 田 靖 史（建築家・慶應義塾大学環境情報学部教授・庁舎検討委員会副会長）
委員 押 金 洋 仁（軽井沢町議会議員・庁舎検討委員会委員）
委員 藤 卷 進（軽井沢町長）
委員 上 原 ま ち 子（総務課長）
委員 横 島 庄 治（総合政策課都市デザイン室 参与）
委員 千 葉 篤 史（職員組合長）

4 審査結果

最優秀提案者 山下設計・三浦慎建築設計室設計共同体
優秀提案者（次点） 株式会社坂茂建築設計

【以下五十音順】

株式会社北川原温建築都市研究所

株式会社隈研吾建築都市設計事務所

株式会社佐藤総合計画

株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ

株式会社藤本壮介建築設計事務所・株式会社第一設計共同企業体

5 最優秀提案者及び優秀提案者の選定理由

別紙「庁舎改築周辺整備事業プロポーザル講評」によります。

庁舎改築周辺整備事業プロポーザル講評

審査委員長 團紀彦

この度の軽井沢町の庁舎建て替えに伴う審査は第1次審査と第2次審査の2段階形式となった。第1次では総応募者20案の中から書類審査により7案が選定され、第2次は1次審査資料に加えて模型が提出され、インタビューによる公開形式のプレゼンテーションが行われた。

第1次審査では株式会社佐藤総合計画と株式会社シーラカンズアンドアソシエイツの評価が高く、新しい庁舎の在り方を示していたと考えられた。1次通過者は株式会社北川原温建築都市研究所、株式会社隈研吾建築都市設計事務所、株式会社藤本壮介建築設計事務所・株式会社第一設計共同企業体、株式会社坂茂建築設計、株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ、山下設計・三浦慎建築設計室設計共同体、株式会社佐藤総合計画、など国内外で活躍する優れた建築家グループが名を連ねており、軽井沢町の庁舎コンペへの関心の高さを示していたといえる。

第2次審査では周辺の文脈に対してより細かい配慮がなされているかどうかなどについて多角的な視点から厳正な討議が行われた。今回の計画は敷地形状が不整形で奥に長く、西に浅間山を望みながら東に軽井沢病院と隣接する難しい敷地の中で、配置計画を含めてどのような提案が未来の軽井沢町とそこに暮らす方達とそこで仕事をされる方達にとって相応しい庁舎であるかが問われたコンペであったと言える。

上記の1次審査で評価された株式会社佐藤総合計画案については現代のテイストにマッチしているものの未来の軽井沢町に対するヴィジョンに若干の勢いの無さが感じられたことと、株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ案については平面計画の魅力に比べて全体の架構のデザインに洗練さが欠けている難点があった。

2等案の株式会社坂茂建築設計案はシンプルな構成の中に建て替え計画を巧みに処理し、屋根を全てソーラーシステムとし、防災的な観点を重視している骨太の取り組み姿勢が評価されたが、浅間山噴火時に屋根がまず被弾する危険があることへの懸念と周辺環境との取り合いに多少のぎこちなさが感じられた。その他株式会社北川原温建築都市研究所案、株式会社隈研吾建築都市設計事務所案は細長い敷地に繊細な庭園を寄り添わせる巧みなデザインが評価された。株式会社藤本壮介建築設計事務所・株式会社第一設計共同企業体案はシンプルで一体感のある造形を持つ点が良かったが、1期と2期にフェイズが分かれることに対応していないことが懸念された。

1等案となった山下設計・三浦慎建築設計室設計共同体案はこれら優れた提案の中にあって、唯一東に隣接する軽井沢病院に背を向けておらず、そこに十分な広がりを持って共生的な庭園を設けたことと、病院の窓からの浅間山の景色をブロックしていないなどの周辺への配慮が見られ、1期と2期のそれぞれの段階でも完成感のあるデザインを追求して

おり、木質系の架構表現と浅間石を用いた地域に馴染むヴィラの様な細やかで巧みな分節を行なっている点が高く評価されたと言える。